

環境の現地観測の概要（大気質、強風による風害）

1．観測内容

工事の実施、自動車の走行及び換気所の供用に伴う環境影響を予測するために、現況における大気質等の濃度や気象条件を把握する必要があります。このため、以下に示す観測を予定しています。

大気質の状況：大気中の二酸化窒素と浮遊粒子状物質の濃度を観測する予定です。

粉じん等の状況：大気中から雨水とともにあるいは単独で降りてきた“ちり”や“ほこり”の量を観測する予定です。

気象の状況：風の向き（風向）と風の強さ（風速）を観測する予定です。

配慮すべき施設等の状況：学校、病院、公園等の不特定多数の人が利用する施設の種類、位置、利用状況などを観測する予定です。

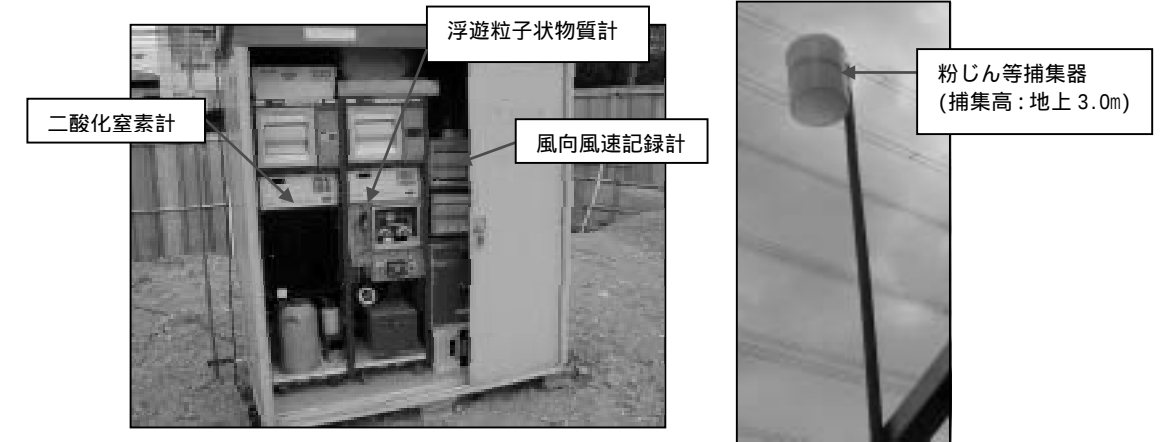
2．観測時期

大気質は四季毎に1週間の連続観測、粉じん等は四季毎に1ヶ月間の連続観測、気象の調査は年間の連続観測を予定しています。

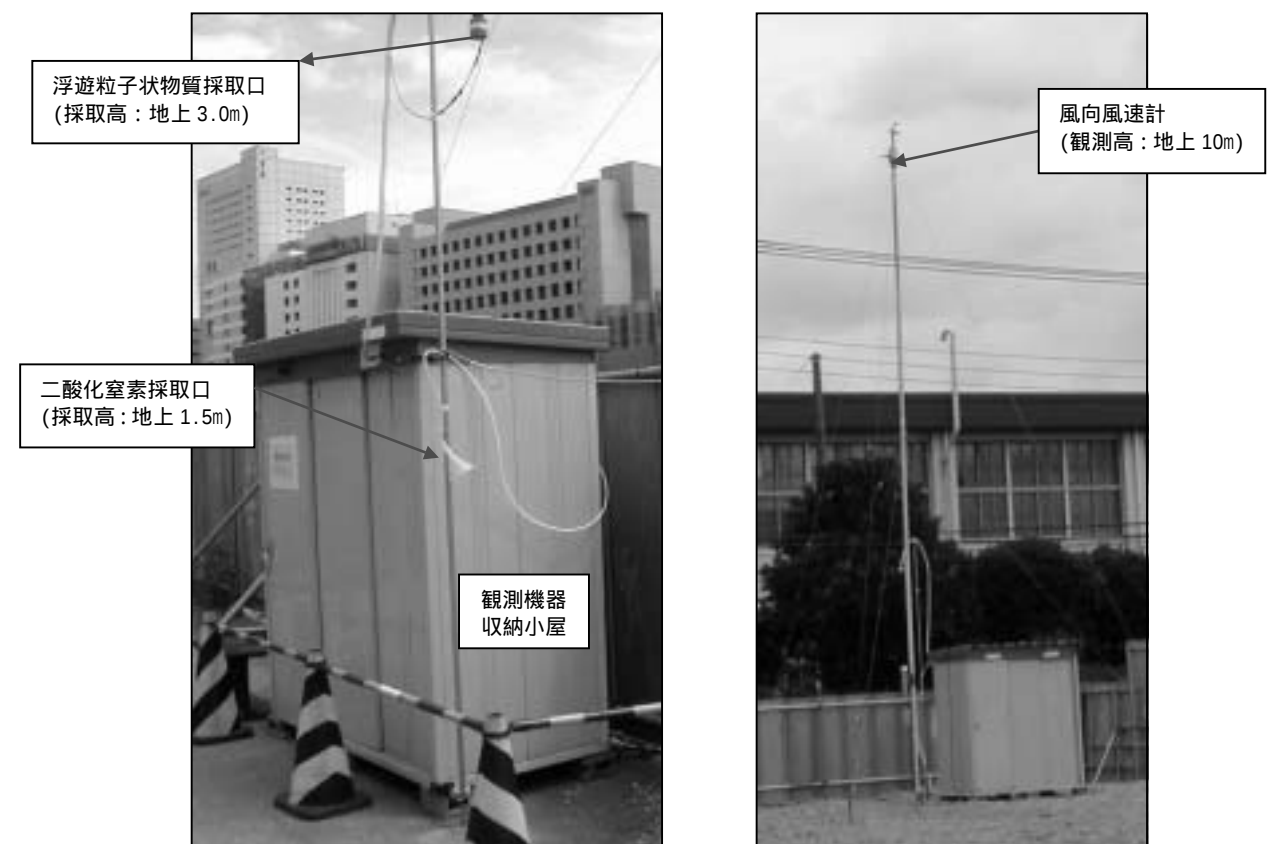
3．観測方法

大気質の状況、気象の状況は自動観測、粉じん等の観測は観測員による定期観測とし、測定機器は四季の観測毎に設置・撤去を予定しています。また、配慮すべき施設等の状況については、現地踏査を実施し確認する予定です。

以下に、大気質、粉じん等、気象の観測機器の設置例を示します。



観測機器の設置例(1)



観測機器の設置例(2)

4．観測地点の考え方

大気質・粉じん等及び気象の観測は、車が地表面を走るジャンクション及びインターチェンジの可能性がある周辺で実施する予定です。